



発行所 香川自治会広報委員会
印刷所 (有)スエカネ印刷

ゴミ処理施設を見学

出し方の重要性を痛感

11月2日、6日、7日の三回に分れて、希望者がゴミ処理施設を見学しました。毎回22、23名、満席で、自治会館から市のマイクロバスに乗り、衛生委員の引率でビン・カン選別場に行きました。

資源ゴミ処理施設で、四千台のビン・カンの中からふた・袋などを除いた三千六百トンを取りサイクルにまわしているとのこと。

「ベルトコンベアで二階に上ってきた瓶を手作業で色別に分ける。コーヒー缶は鉄なので磁石でとりプレス。一塊が35キロ。750個で150円位。最終的には建築用に使われる金属棒になる。スチール缶は千個で千五百円位になるし、アルミ缶だけだと高価になるので、業者は喜ぶ。ガラスやビニールみたいな陶器、乾電池、油の残っている缶や食べ残しの缶などは、処理に困っている。きれいに洗っていないと買いたたかれるので、出す時に特に注意してほしい。」と、市職員の熊沢さんは話されました。

次に10月に完成したばかりの新しいゴミ焼却処理施設を見学。平成3年度に着工、3年10ヶ月、168億8千万円をかけて完成したもののだけに、すばらしい。「連続燃焼式ストーカ炉と呼ばれる最新設備を採用。一基で20トンのゴミをゴミピットに投入。ゴミクレーンで焼却炉に運ばれる。ここで焼却用の空気を吸いこんで高熱で臭いを分解している。施設から臭いもれることはない。焼却炉に運ばれたゴミは、ストーカ炉とよばれる階段状に配列した耐熱物の火格子を下りながら完全燃焼する。ゴミの乾燥、燃焼、燃えかすの燃焼、灰処理までをコンピュータで完全に制御。灰は灰ピットへ。そして灰クレーンで搬出車に乗せられ埋立地へ運ばれる。燃焼によって発生する熱をボイラーで吸収し蒸気発生させ、事業所内の給湯や冷暖房などに使われたり、発電もする。余剰分は電力会社を経て、一般家庭でも利用されることになっている。また、ゴミ燃焼時には有害ガスの発生も心配されるけれども、公害防止対策としての高度の除去装置やバグフィルターの設置によりダイオキシンの発生防止などに万全を期しているとのこと。「家庭から出るゴミがどのように処理されているか、ぜひ見学してほしい」と落合職員は話されました。次に堤の最終処分場を見学。「ここもあと二年位で満杯になってしまふ。その時にどうするかが課題だ。」と熊沢さんは話されました。

残された粗大ゴミ「大型有料ゴミ」

衛生副委員長 三川 尚 子

10月1日以後、粗大ゴミを収集する品目が、大幅に変わりました。前もって市の方から広報でお知らせしたり、ゴミの出し方のチラシを配ったり、皆様には出来る限りの手段で知らせてはいるものの、粗大ゴミ収集の当日は、収集出来ない品物が数多く出され、収集車

が行った後には、「ダメ」のシールが貼られて置きざりにされている所が、ふだんの数倍にもなりました。収集車の行った後、すぐ点検した結果が下表の通りです。今迄は粗大ゴミとして出してもよかった品物も 10月1日から有料になり、収集事務所に電話をし

て、五百円の証紙を貼って、持っていったらわなければならぬことになりました。ゴミの分け方、出し方をよく読んで、有料かどうかをチェックしてから、粗大ゴミに出すようにしましょう。収集車の持つていかない粗大ゴミは、有料の不法投棄となります。私達衛生委員も、この不法投棄の品物を一日も早く引き取ってもらって、今後は規則に従って、粗大ゴミを出して頂くよう点検し、出されている場所の人々に、心当りは無いか聞き込みを行っています。少しでもきれいな住みよい街、香川を心掛けていきます。皆様のご協力お願い致します。

大型ゴミ有料になって初めての残された粗大ゴミ

Table with 4 columns: (第一町内会), (第二町内会), (第三町内会), (第四町内会). Lists items like 'コタツ・ドア・フuton', 'ガステーブル', 'スクー', 'ストーブ', etc.

晴天の下、体育祭賑わう



ネズミたちは粉で真白け!

優勝は第一町内会

雨天順延となった10月10日、東京オリンピックの時と同様に、あたたかな日和に恵まれて、第27回香川地区体育大会が、香川小学校で行われました。グラウンドが整備されて、たいへん競技がしやすかったようです。

今年の種目は「ビッグ&スモール」、(クイズで大か小かを答える)、「ワンカップ・レース」(一升ビンが前方にあり、一杯ずつ入れてゆき、満杯になったらグラウンドをまわる)、「粉屋のネズミ」(小麦粉の中に餌が入っていて、それを口にくわえてゴールする)、「お猿のカゴ屋」、「人狩り競争」(借り物競争)でした。「ワンカップ」は、透明なビンを確認するのがたいへんだった。色つきだと中がみえずもり上りに欠けた。「粉屋のネズミ」は、粉を吸いこんで苦しかった。次回ももう少し安全に注意した方がよいのではないかと。「人狩り競争」は、「人借り」ではないかと。人権問題ではないかの声もきかれた。バスト85cm以上の人とか、100円玉5個を持っている人、しまの靴下の人、ミニスカートの人とか設定が細かすぎた。しまの靴下の人は、いなかっただけで二回目からはずしたようだ。「移動玉入れ」は逃げる範囲をきめた方がよい。ライン外

起震車を使った防災訓練を行う



水消火器、バケツリレー、起震車体験、三角巾の使い方など、防災訓練が、11月5日(日)、第一青少年広場で行われました。泡消火器と違い近隣に迷惑もかけず、後片づけも簡単でよかった。起震車は震度4から7までを経験。子供達は机の下にもぐって揺れを経験していたので、消防署員も「さすがは学校の訓練が徹底している。たいへんよい」とほめていた。「面白かった。もつとのりたいた。実際の時でも、慌てずに落ちついた行動のできるように、日頃の心構えが大切ですね。」

第一町内会



自然体でボランティア活動

原田信子

月に一度の訪問ボランティアを始めてから五年になる。隣接する地域にある特別養護老人ホームへキーボードを持参し、童謡と唱歌を歌いに行く。サークル仲間の有志は、一階と二階の食堂で、季節に合った歌を七・八曲続けて歌う。

私達が歌い始めるとテーブルをたたいて調子をとったり、一緒に声を出す方もいる。「いいですね。いいですね」と、一曲ごとに感心してくださる方、急に泣き出す方。「何かください」と訴えるように私達に話す方もいて、戸惑うこともある。歌い終わった後、歌詞カードを配り、二曲はホームの皆さんと一緒に歌う。「また来月、来ます。お元気で。」ありがたうございませう。

大阪の安倍野橋から近鉄大阪線に乗車、上ノ太子駅で下車すればもうそこら辺が、ちかつあすか(近つ飛鳥)である。香川とは違った違いもない穏やかな村落で、家の間には十分な広さの畑が残り、丘陵には葡萄の木が精一杯枝を広げている。地図を片手に歩きはじめてから、右手に曲った方が近道かも知れないと方針変更したのがまずかった。上り坂の住宅街に入込み方向も逆行したが、なおも強引に歩き続けて、やっと一番上に辿りついたら、そこからあとほんのりとした森が目指す御廟だったことがわかった。「急がば回れ」。そこは叡福寺と言ひ、聖徳太子と母および妃三方の御廟所である。法隆寺とは随分離れているな。その御廟のあ

「ちかつあすか」とおつあすか

した。お気をつけて。出張ミニコンサートは終了。ロビーで自前のお茶を飲みを潤す。仲間が持ち寄ったお菓子や漬物のおいしさは格別だ。童謡と唱歌を歌うことは私達の楽しみ、喜びである。自分の性格に合ったボランティア活動を発見し、定期的な訪問を申し込み、受け入れられたのは幸運だった。ホームの皆さんがコーラスを聞いて心が和み、耳を楽しませてくだされば私達は嬉しい。毎月、都合のつく仲間が集合し歌っている。十人以下の時もある。ボランティアは「世のため、人のため」ではなく、「自分のためになる」行動と思う。自分の生活の励みになる。体裁や思い上がり、押

歴史的な土地“あすか”のこと

る太子町は河内の国の一番東側で、葛城山に連なる峠を東に越せば大和の国である。ゆるやかに形成された谷とはいえない、山のひだのような谷には、聖徳太子の御廟や推古天皇陵など四・五基の天皇陵があり、正に「王家の谷」ともいえる所である。我々の暮している関東を「あずま」と名付けた日本武尊(やまとたけるのみこと)が、三重県の能褒野(のほの)で亡くなられた時、白鳥になって飛んで行った先がここ近つ飛鳥だともいわれる。道とはいっても、バス一台がやっとの道を東進して飛鳥川を渡ると、拡幅された道路につき当

し付けの気持が少しでもあると長続きしない。心の持ち方に無理のないことが最も重要。今までにくつつかのボランティアを体験し、いろいろな考え方の人達と出会って得た結論である。「毎週末にいたいてもよいのです。職員の方々は訪問日のふれあいの様子を、さりげなく見守ってください。人数が少なくても伴奏がなくとも、遠慮せずにいらしてください。訪問回数には応えられないが、コーラスの内容を充実して、訪問したいと頑張っている。私達のサークルは、会費を集めずに運営する方針。歌唱指導や伴奏を無償で引き受け、応援してくれる人達の好意に感謝しながら、これからも訪問ボランティア活動を続けて行きます。真の優しさを備え、自然体でホームに行くことのできる仲間と気負わずに。

寺田達也 第一町内会長

体育大会の反省会

リレーの選手選びが大変

第三町内会では、10月22日、午後6時から体育大会の反省会を行いました。

自治会・体育振興会・PTA・子供会の役員が集まって、意見をのべあいました。

毎年のことながら、選手を選ぶのがたいへんで、特にリレーの選手はなかなかみつからず、苦労をした。中学生や高校生は部活動が優先で、中学の先生に頼んでも、学校の方に参加してほしいと断られ、前夜の8時過ぎに、やっと一人がまきまり、参加することができた。この町内でも同じだと思うけれども、何とかならないものだろうか。

諏訪神社の餅つき大会

11月23日、午前10時から神社で新穀感謝の式典があり、11時から餅つき大会が行われます。神社役員の方々が前日から仕込をされ、あんころ、きな粉、からみ餅、豚汁等が参詣者に配られます。神社ではみなさん多数のご参拝をお待ちしています。

柿の話



「照り柿、湿栗」といって、晴天が続く年は、柿が豊作で、雨の多い年は、栗がたくさんなるそうです。今年は何処をみても柿が鈴なりで、美しい色どりで、のどかな田園の風物詩になっていますね。

柿はいろいろな種類がありますが甘柿と渋柿があります。甘柿にも富有柿のように砂糖といわれる褐色の斑点が少いものと、黒色褐斑のたくさんある砂糖柿があります。

渋柿は熟柿になってから食べるか、渋味をぬいて干し柿にして食べるかで種類別されています。

渋柿の皮をむいてほす時に、熱湯に三秒つけてからほし、時々実をもんで柔かくなつた所で、ビニール袋に入れて密封し、冷凍庫で保存しておく、一年中おいしい干し柿が食べられます。冷凍庫から冷蔵庫へ半日置くと、やわらかくなり、こたつに入って食べる

第三町内会

討する必要があるのではないかと。せつかく小学生が一位で走つたのに、大人が走って負けてしまつたりして、小学生がかわいそうだ。年代順に走らずに、順序は町内に任せて作戦をねり、早い小学生をアンカーにすると、最後の50m位を町内会長が走るとか、男女混合で走るとか、工夫してみてもどうか。体振の人たちで、町内別

- 第三町内会の事業計画
- 11月○町内役員会
 - 第3日曜日 午後7時から
 - 自主防災訓練に参加
 - 防犯灯プレート取り付け
 - 役員・組長で行う
 - 12月○役員・組長合同会議
 - 防犯灯管理番号の確認、その他
 - 町内一斉清掃
 - 役員・組長・一般
 - 防犯灯プレート取り付け
 - 役員・組長
 - 1月○町内役員会
 - 第3日曜日 午後7時から
 - 新組長選出
 - 本部で決めた通りに行う
 - 第3日曜日 午後7時
 - 新組長会議
 - 評議委員を選出
 - 新町内役員を選出
 - 新役員・組長名簿を作成
 - 三役で行う
 - 3月○新・旧合同会議
 - 新役員会
 - 町内役員会(反省会)

大連で迎えた終戦 ②

亀田 栄介

(前回より続く)

そこには正に敗戦を認めぬ日本軍の雄姿そのものが現存していた。その頼もしい雄姿は敗戦という現実の前では一種の虚像としか映らなかつたが、予想に違わずその軍用列車は、ソ連軍の集中攻撃を受けたとの連絡を、奉天の駅から受けたのは、それから間もなくだった。今日か明日かと出発を待ち焦がれていた我々は、この事件で無惨にもその希望を打ち砕かれてしまった。といつて何時までも四平街駅構内に留まっているわけにもいかず、それに限りある食料もそろそろ底をつき始め、どうしようも無いという焦燥感に駆られていたある日、有蓋貨車が出るという。但し貨車の中身は空車ということにするので、もし人間が入っていることが暴露した場合、生命の保証は出来ないという条件で、それでも良いという人だけ乗車せよという。私を初め大方の人間は乗車することにしたが、先行きに見切りを付けた者数人は、この情報の到来を待たず、既に大連に向けて徒歩で出発したものがいた。この人達の多くは若い人達だったと聞くが、その後の消息を知る由もない。出発に当って責任者の注意として

①無人貨車ということになっていて、声を出さないことにはもちろん、音も出さないようにすることと発砲などの不測の事態に備え、全員伏せの姿勢をすること、などであった。四平街を出発し幾つかの駅を無事通過した後、いよいよ次は奉天という時、突然列車が停止し、外から聞き慣れないソビエト語らしい声か二言、三言聞こえてきたが、間もなくその声も遠ざかり、「ガタン」という音と共に再び動き出した時の安堵と喜びは正に死地を脱した時の何にも替え難い感激だった。そして無事大連に着いたのだ。市内電車が昔のまま走っており、安心したもの、見慣れないソ連の兵隊や、トラックが走っているのを見て異様に感じられたし、何処からともなく聞こえてくる戦時中には聞けなかつたドリゴのセレーナーデが、物悲しく心に響いたのをはつきり思い出すことができる。二度と無事に帰還できると思えなかつた大連に、このように無傷で帰還できたのが奇跡に近いと今でも思っている。先ず第一に終戦が二・三日遅れていたら、ソ連戦車の猛進撃により、前線に近かつた西安は、ひとたまりもなく蹂躪されて、我々は犬死か捕虜となつて、シベリア送りになつていた確率が高いこと。第二に曲がりなりにも現地解散したときは、まだ満鉄の鉄道運行の実務は、日本人の手に委ねられていたので、我々の隠密行を理解して協力してもらえたことが考えられ、運命の神の庇護のたまものと感謝している。

第二町内会

平成六年八月のNHKの終戦秘話の特集番組によれば、日本軍の捕虜を全員日本に帰国させるといふ方針から、急遽、日本軍の捕虜50万人を確保して、ソ連に使役として使用することを昭和20年8月23日に決定。8月21日に帰国した私は、2日違いでソ連送りになつたかも知れないし、ソ連抑留捕虜

死亡者の中に入ったかも知れない。人間の運命という宿命か、我々の知らない所で、斯くも簡単に決められていたことを、またその方針変更決定の日が、奇しくも私の18回目の誕生日だったことを、半世紀経過した今日知つて感慨深いものを感じる。(了)

季節の花、菊

花屋さんが書いた
花の本より

菊は歴史のある古い花のイメージがあるが、「万葉集」には菊の歌は一首も詠まれていない。元来菊は、中国で盛んに栽培されており、漢と唐の間の時代から栽培されていたという記録がある。今日のような菊は、宗の時代に作り出され、一般化したという事です。日本には奈良時代に渡つてきた、そして多くの宮人達が菊を愛で、さまざまな行事に菊を使い始めた。天武天皇の時に菊花の宴が行われ、後に旧暦九月九日を「重陽の節句」として、酒杯に菊花を浮べて飲み観菊の酒宴が催された。当時の人は菊酒のほかに、菊の下を流れる水(菊水)や、菊の上の露を飲んだり、これで身体を拭いたりすると長生きできると信じていたようだ。

「紫式部日記」の中にも、「菊の露わかゆばかりに袖ぬれて」とある。また菊合せといった優雅な遊びも流行した。菊はこうして日本人の暮らしの中にとけこんでいった。
皇室の御紋は菊が使われているが、鎌倉時代に後鳥羽天皇が菊を好み、その紋様を衣服につけたことが始まりのこと。そして一六片の菊の花の御紋が、正式に決まつたのは、明治四年とされている。

第四町内会

戦後50年を振り返って ②

熊沢フジ江・政吉さんに聞く

戦後50年を振り返った時、戦地での苦難を思う男性の方々、そして留守を守る、女性と子供達にとつても、つらい思い出、いろいろ思い出があつたことでしょうか。熊沢政吉さんと母親のフジ江さんに当時のお話をうかがいました。

終戦前の香川は80軒位しか家がなく、熊沢さんの家から富士山や甘沼方面が見渡せ、交通量も少なくて静かな土地でした。その香川も横濱方面から児童が、浄心寺などのお寺に疎開に来るといふ、戦時色が強くなつて来ると、食料不足や衣料不足になつて、配給が主になり、茅ヶ崎駅周辺まで歩いて受取りに行つたそうです。

一ヶ月分の食料の配給物も十日分位しかなく、それを一ヶ月分に食べさせなくてはならず、お米にさつまいもを入れたり、すいとんや自分で作つた野菜など、育ち盛りの子供さんに食べさせるのに大変だつたようです。また、衣料品不足で自分の着物を上着、モンペなどに作り直して着せたそうです。当時の主婦は皆、このような経験は当たり前であり、戦地にいる御主人、息子さんの無事を祈りながら、毎日、食料の調達や、生活用品の不足に苦心する日々だつたそうです。フジ江さんは現在88歳ですが、政吉さん、孫さん、ひ孫さんに囲まれ、幸せな現在ですが、今でも戦時中の物資不足を忘れられず、使えるものはなかなか捨てられず、大事に残してあるそうです。現在は雑巾が売られていると話

第四町内会が

体育大会で三位

リレーでは一位を獲得

雨天延期となつていた体育大会は、予備日の十月十日体育の日に行われました。第四町内会では昨年六位の雪辱を期して大会に参加しました。

新種目の対抗レース「ワンカットプリレー」は小さなコップに水をいれて平均台を跳び越えてその先の一升瓶をいっばいにするというのがものでした。接戦でしたが、四町内が逃げきつて一位となりました。



リレーで力走する選手

玉入れその他はあまり振るいませんでしたが、最後の男子リレーでは四町内の実力を見せて、二位以下を大きく引き離して、余裕の一位となりました。総合成績は第三位でした。一般種目は老若男女だれでも出来る種目で参加者は楽しんでいました。来年はより多くの参加を期待しています。選手の方々が苦勞様でした。

ノラ猫にも生きる権利が

投書

十月二十一日、ゴミを出しに行つたら、ゴミの山には網がかぶせてあつた。ショックで寝こんでしまった。この辺の集積所は、もう全部網を使つているとのこと。ノラ猫達にとって、ゴミは最も大事な食料だと思う。他には人間が与える食物がある。しかしそれだけで生きて行けるノラは少ないのではないかと。虫等も食べられるだろうが、私は猫が虫等を獲つても、食べるのを見たことがない。遊ぶだけのようだ。ゴミを食べられなくなると、仕方なく虫等を食べるようになるだろうが、暖かい季節は虫もいるが、冬になるといなくなるから、ノラ達は殆ど死ぬのではないかと思う。せめて冬だけは網を使わないで

投書への答え

「ごみ通信ちがさき」で御承知のようにごみ集積場の維持管理は利用者の責任で行つていただいております。したがって網も利用者からの御要望によつて渡しております。集積場所の方達と話し合つて見て下さい。衛生委員会

文化厚生委員の踊りに爆笑



八木節を踊る文化厚生委員

9月24日・午前10時から農協会館で敬老会が開かれ、多数参加。大正琴や舞踊、ダンスや手品、とび入りのカラオケもあり、みごとな演技が披露された。80歳以上の踊り手三人に花束が贈呈され拍手をあげた。最後に文化厚生委員の方が、はっぴ姿に鉢巻姿で八木節を踊ったが、気ままに楽しく踊っている姿が面白く会場は爆笑。会場の人気をさらった。

地引き網に歓声

10月15日(日)、西浜海岸で体育委員会主催の地引き網大会が行われました。快晴・波静かの浜辺では体育委員会の受付嬢が笑顔で迎えてくれました。金五百円也を払ってテントの所へ行ってみると子供連れの家族で賑わっています。テントの前では体育委員のお兄さん？達が焼きそば・バーベキューの準備に大忙しです。

十時頃に一回目の地引き網が始まりました。大人に混じって網を引く子供達の笑顔が素敵です。中には綱にぶら下がって歩いているような幼児もいます。獲物が入っている網を漁師さん達が開けようとする子供達が我先にとのぞきこみます。結果はイワシとサヨリがそこそこで、とてもお土産に持

その終幕を、我々文化厚生役員一同による拙い和踊りでお茶をにごしての、今年の敬老会も終った今、その様々を思うと、楽しくもまた冷汗のひとときでもあったようです。昨年の面々に若干の新顔が参加されての賑わいは、会場をほぼ満席にしての宴であったように思います。敬老会をかねて頂きた大正琴から始まる、文化厚生委員会の始まり、フォー

敬老会をかねりみて

文化厚生委員長

ヤズダンス、マジックショウから日本舞踊と、バラエティなプログラムが客席の皆さんを魅了したようです。ことのほかマジックショウでは、プロ顔負けの演技に、拍手喝采を起しての賑わいでした。上座からそれとなく皆さんの姿を観ると、それぞれが楽しい笑顔で舞台を見入っていました。

ていたようです。笑顔そしてほほえみ、年輪を重ねてきた者だけでもつ、真の喜びの表現は実に豊かで、深い味わいをもつものと改めて知った事でもあります。願わくば皆さんに、寄る歳並みに若返り老いても益々さかんであれ、そして一日でも長生きされ、人生を楽に過ごしてください。敬老会をかねて頂きた大正琴から始まる、文化厚生委員会の始まり、フォー

文化祭にもっと関心を

文化厚生副委員長

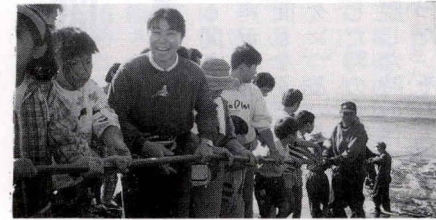
池貝 閑江

二回目を期待してとれたての魚のバーベキューが始まりました。焼きそば・焼肉に舌鼓を打っている間に、子供達は宝探しを楽しんでいました。

10月28・29日は文化祭。搬入当日は皆さんとつてもいい顔をして作品を大事そうに持ってこられた。階段を一步一步踏みしめながら上って行く方、机にテーブルクロスを敷き飾りつけをする方。とてもよい感じで人生の輪を見つけてきました。目標に向って長い間楽しみながら精魂こめて造りあげた芸術品は、後にも残ります。

土産に、昼過ぎに事故もなく、めでたく解散となりまし

た。体育委員の皆様！ありがとうございます。敬老会をかねて頂きた大正琴から始まる、文化厚生委員会の始まり、フォー

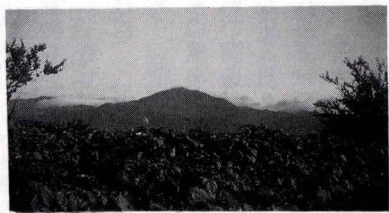


大漁を期待して網を引く

た。体育委員の皆様！ありがとうございます。敬老会をかねて頂きた大正琴から始まる、文化厚生委員会の始まり、フォー

相模の万葉

大山 阿諏訪加代子



に関心を持っていただき、多勢の方に見て頂きたかったと思います。出品された皆様、ご協力下さった方達に厚くお礼申し上げます。

相模嶺の 小峯見そぐし
忘れ来る 妹が名呼びびて
吾を哭し泣くな

(歌意) 相模の嶺を見ながら過ぎゆき、遠くなつて、次第に忘れさうになつて来る妻の名を呼んで、ひとり泣いて泣いて泣くことよ。

(鑑賞) 何処へ、何の目的を持った旅なのだろうか。作者の生活の中で、いつも意識されていた相模嶺(大山)が遠ざかるにつれて、妻の面影も次第に薄れてくる。しかし遙かになった稜線は、まだ視野のうちにあり、別れて来た妻の姿

が、彷彿と作者の眼前に浮びあがるのだろう。思わず妻の名を呼びかけて哭いてしまふというのだ。『万葉集』には、人と風景が溶けあつて歌われているものが多いが、この一首もそうであり、この時代いかに自然の風物が生活に密着していたかが伺われる。
茅ヶ崎からも美しい姿を眺められる大山の歌を東歌15首の中から選び、現地を訪ねた。
そこで大山をめぐる古代の道を探すことにし、大手町にある国土地理院へ行き、迅速地図(明治13年・19年測量)と、正式地図(明治25年・43年測量)を手に入れた。次に『新編相模風土記』から古い道の記述を拾い出し、その地図に書き込む作業に入った。これが思ひのほかの雑仕事となり、畳六畳ほどに拡大した相模嶺の地図を指で辿りながら一つ一つ記入。
完成といえるかどうか疑問だけれど、縮小したカラー版の地図を手にした時は、肩の力がぬけたような気がした。地図に古道を書き入れて学んだことは、古くから人々に使われてきた道のほとんどが年月を経た今も、幹線道路として存在し、土地の呼び名もそのまま

に残っている事実だった。万葉時代には、相模嶺が相模国を象徴する山であり、その周辺に現在も相模原、相武台などの地名が、当時のままに残っている。さて、「この相模嶺の歌は何処で詠まれたのか」をテーマに、西は渋沢、曾屋……平塚とたどり、東は、戸田……座間・町屋……府中を経て、武蔵国分寺まで、私たちの手で書き入れた地図を持って何回か往き来た。

町内会	人数	日程
新倉光蔵様	75才	9月12日
第四町内会	38-3組	
三木乙吉様	67才	9月18日
第一町内会	11組	
市川チカ様	77才	10月1日
第三町内会	11-2組	
真道哲雄様	85才	10月14日
第四町内会	41組	
堀内信一様	81才	10月16日
第二町内会	3組	
長島あかり様	15才	10月17日
第一町内会	21-7組	
河合信明様	71才	10月27日
第三町内会	19組	
岩口百合子様	80才	11月5日
第四町内会	23組	
渡部妙子様	44才	11月8日
第三町内会	12組	
熊沢奈次様	93才	11月16日
第三町内会	24-4組	

訃報

7年11月16日現在